

三木露風の栞



赤とんぼ

作詞 三木露風
作曲 山田耕筰

夕焼け小焼けの赤とんぼ
負われて見たのはいつの日か
山の畑の桑の実を
小かごに摘んだはまぼろしか
十五で姐やは嫁に行き
お里のたよしも絶えはてた
夕焼け小焼けの赤とんぼ
とまっているよ竿の先



三木露風 (一八八九年〜一九六四年)

主な著作目録の一部

明治二十二年、現在の兵庫県たつの市に生まれる。
幼い頃より詩作に励み、つぎつぎに、童謡、短歌、
随筆を発表し、後に北原白秋と並んで「白露時代」を
築き上げ、日本詩壇に大きな足跡を残した。

大正九年から十三年までの約四年間、トラピスト
修道院の岡田初代院長の要請により、若い修道士達
に国文学を教える講師として招かれ、なか夫人を伴っ
て赴任してからは熱心な指導を続けると共に自然豊
かな当別の地をこよなく愛し、周辺の散策を楽しん
だという。

名曲「赤とんぼ」は修道院下の社宅の窓から眺め
る夕焼けの美しさと、無数に飛び交う赤とんぼの群
に、遠い故郷(たつの)の情景を重ね合わせて作詩
したものに、友人の山田耕筰が曲をつけて発表され、
今なお歌いつがれている。

詩集 「夏姫」処女詩集 明治三十八年

詩集 「廃園」 明治四十二年

詩集 「寂しき曙」 明治四十三年

詩集 「白き手の獵人」 大正二年

詩集 「幻の田園」「良心」 大正二年

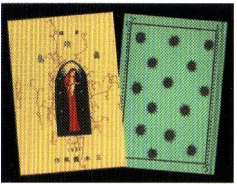
童謡集 「真珠島」 大正十年

詩集 「神と人」 大正十五年

詩集 「トラピスト歌集」 大正十五年



『夏姫』



『真珠島』

「トラピスト歌集」より

日の岡とよばましと思ふ今よりは朝に夕に清き草丘
磯のかみ高きに上り見渡せば船一つなき津軽海峡
海風ぎて青く静に函館の山も見えたり白き燈台
桜花盛りの時に春の月見るは楽しも我家のさくら
四とせ前植ゑたるポプラ風にそよぎ葉のよく繁る木となりけり
ルルドなる聖母の像のほとりなる樹に蟬のなく時も過ぎけり

「跋」トラピスト修道院の所在地であるところの渡嶋国石別の山と、高原と、
其附近の津軽海峡の海等の景色は実に好い。

此歌集には七百五十五首の短歌が収めてある。

一九二六年 五月 羅風

山鳩の声

梅雨霽れの青き野に
鳥が鳴く
日暮れむとす
山鳩の声幽かに
遙かに遠し
「神と人」より



制作 ギャラリー日の丘

〒049-0283 北斗市三ツ石347番地
TEL&FAX 0138-75-3557
主宰 上田公夫

協力 大野文化財保護研究会
上磯地方史研究会